

令和三年十二月

交通安全全子供作文集

小・中学校児童生徒の作文第四十四集



家族で守ろう

交通安全

一般社団法人

愛媛県交通安全協会

後

援

愛媛県教育委員会



伊予銀行

この作文集は、伊予銀行様からご寄付いただいた「交通安全定期預金の積立金」の一部を活用して作成しました。

は し が き

愛媛県交通安全協会・県内十八の地区交通安全協会では、愛媛県教育委員会の後援により、小・中学生を対象に、毎年交通安全に関する作文を募集しています。この趣旨は、小・中学生の情操教育に資するとともに、交通安全についての関心を高め、子供の交通事故防止を図ることを目的に、昭和五十三年から実施しているもので、本年は小・中学校併せて百三十三校から二千三百五十九編という多数の応募がありました。

応募作品について、地元の地区交通安全協会の第一次審査を経た八十編を、愛媛県交通安全協会の第二次審査で四十編選定し、更に愛媛県教育委員会に第三次審査をお願いして厳正な審査の上、愛媛県交通安全協会入選作文として二十五編を選んできました。

作文は、子供たちが身近に体験したこと、家族や友達が交通事故の当事者になったことなど、広く交通安全の大切さについて、素直にかつ切実に訴える内容となっております。

今回、入選作品二十五編を「交通安全全子供作文集」第四十四集として発刊するに当たり、「愛」をシンボルマークとし、題名は入選作品を代表して、西条市立吉井小学校四年生の和田星月^{わだせしる}さんの「家族で守ろう交通安全」とさせていただきました。

この作文集が家庭、学校及び職場において、一人でも多くの方に読まれ、交通安全への関心と認識をより一層高めていただければ望外の喜びです。

応募していただいた多くの小・中学生の皆様には、感謝いたしますとともに、作文集発刊のために御協力いただいた関係者の皆様には厚くお礼を申し上げます。県民の皆様には、今後とも交通安全協会の活動に御理解をいただき、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和三年十二月

一般社団法人 愛媛県交通安全協会会長 矢野 精一

愛媛県交通安全協会入選作文目次

「小学生の部」

じてん車のれんしゅう	愛南町立平城小学校	二年	西村 <small>にしむら</small>	義景 <small>よしかげ</small>	1
交通安全について考えたこと	鬼北町立好藤小学校	三年	山本 <small>やまもと</small>	怜奈 <small>れな</small>	2
家族で守ろう交通安全	西条市立吉井小学校	四年	和田 <small>わだ</small>	星月 <small>せしる</small>	3
交通事故をなくすために	大洲市立平小学校	四年	宮崎 <small>みやざき</small>	蒼菜 <small>そな</small>	4
事故を無くすために	西条市立西条小学校	五年	加藤 <small>かとう</small>	衣織 <small>いおり</small>	5
思いやりを持って	今治市立乃万小学校	六年	杉田 <small>すぎた</small>	美羽 <small>みゆう</small>	6
事故のない街づくりへ	鬼北町立近永小学校	六年	川上 <small>かわかみ</small>	夏 <small>なつ</small>	7
登校班長として	愛南町立城辺小学校	六年	中尾 <small>なかお</small>	優月 <small>ゆうぎ</small>	8

「中学生の部」

「ごめんなさい」ですまない命	四国中央市立土居中学校	一年	齊藤 空愛	9
交通事故を目撃きして思うこと	新居浜市立南中学校	一年	和泉 滯央	10
私の「交通安全」	西条市立丹原西中学校	一年	余吾 舞果	11
「ただいま」と言える毎日を	松山市立雄新中学校	一年	水口 結愛	13
「ゆとりある行動と道徳意識を持つとう」	愛媛大学教育学部附属中学校	一年	中野 眞由	14
交通ルールを守ること	松山市立拓南中学校	一年	中野 日葵	16
ながら運転	松山市立拓南中学校	一年	楠本 唯衣	17
生活安全委員になって思うこと	四国中央市立川之江南中学校	二年	稲岡 柚那	19
油断していませんか	新居浜市立西中学校	二年	大林 あおい	20
私にできること	西条市立西条西中学校	二年	松田 菖	21
被害者にも加害者にもなりません	西条市立丹原東中学校	二年	安倍 ゆず季	23
「高齢者ドライバー」	大洲市立大洲北中学校	二年	池浦 ひな	24
交通安全について	宇和島市立城北中学校	二年	桑山 暁央	26
ヘルメット	四国中央市立三島西中学校	三年	石井 もも	27
「私の願い」	愛媛大学教育学部附属中学校	三年	吉田 みお	28
事故を防ぐために	松山市立三津浜中学校	三年	梶岡 咲良	30
安全意識を高めて	松山市立南第二中学校	三年	安永 ゆずは	31

愛媛県交通安全協会入選作文（二十五編）

【小学生の部】

じてん車のれんしゅう

愛南町立平城小学校

二年 西村 よしかげ

「あしたは、じてん車のれんしゅうをしようか。」

金曜日よるに、おとうさんが言いました。

「うん、行く。」

と、ぼくはへんじをしました。ぼくは、土曜日は、ときどきじてん車のれんしゅうをします。ぼくは、じてん車が大すきです。

ぼくは、四さいのころじてん車をかっもらいました。ほじよりんつきのじてん車です。公園でれんしゅうしました。いつもおとうさんがつれて行ってくれます。一年生になったとき、おねえちゃんのヘルメットをもらいました。そして、ほじよりんなしでのれるように、いっぱいれんしゅうしました。なん日もれんしゅうして、やっとのれるようになりました。

ぼくの学校では、てい学年が、じてん車にのつてもいいのは、いえのまわりだけです。大きなどうろでのるときは、おとなといっしょにのるきまりです。だから、いつもじてん車にのるのは、いえのまわりか公園です。ぼくは、もつとおくまで行きたいなあと思っていましたが、きまりはまもらないといけません。

二年生になって、おとうさんが、

「三年生になったら、一人でじてん車にのるようになるから、そのためにすこしずつ、れんしゅうをしよう。」

と言いました。ぼくは、がんばりたいなと思いました。そのときから、ぼくとおとうさんは土曜日にときどきれんしゅうをするようになりました。

土曜日の午後、ヘルメットをかぶって出ばつです。いえの前のみちから、大きなみちをよこ切つて、土手のみちに出ます。土手のみちをまっすぐすすむとスパーにつきます。スパーでは、おかいものをします。そして、また土手のみちをおつてかえります。ぼくのじてん車のれんしゅうは、そんなコースです。おとうさんは、ぼくにいろいろ教えてくれます。人があるいたら、

「もつと左によけて。」

と言います。スパーのちゆう車じようをはしるときは、

「車にあたらんように気をつけて。」

と言います。おうだんほどうをわたるときは、

「じてん車からおりて。あるいてわたるよ。」

と教えてくれます。おとうさんといっしょだと、あんしんです。二年生の間にいっぱいれんしゅうして、三年生になったら、一人でもあんなにのられるようにしておきたいです。

ぼくがぜつたいにまもっていることは、三つあります。一つ目はヘルメットをかぶることです。ヘルメットがないと頭をけがしたり、いのちがなくなつてしまつたりするからです。二つ目は、前をよく見てのることです。よそ見をすると、人や車にぶつかつてしまうからです。ぼくは、いつも人や車に気をつけながら、左がわをきちんとはしっています。三つ目は、おとなの人といっしょにのることです。今は、見まもつてくれる人がいて、いろいろ教えてもらつてれんしゅうしています。もつともつとれんしゅうして、こう通ルールもいっばいおぼえたいと思います。

これからも、おとうさんとじてん車のれんしゅうをつづけたいです。

交通安全について考えたこと

鬼北町立好藤小学校

三年 山本 怜奈

わたしの学校では、地いきごとに登校はんを作って、しゅうだん登下校をしています。わたしの家は学校からかなり遠く、登下校で歩く道は車の交通りようが多いです。わたしたちが安心して登校できよう、毎朝、見守りたいの方々がいっしょに歩いてくださっています。大人の方がいるので安心して学校へ通っているけれど、ニュー入などで交通じこにあつた話を聞くと、わたしは、「明日の登下校はだいじょうぶかな？」

と、とても不安になります。身近なところでもじこがおこっているし、下校の時は見守りたいの方がいないので、自分のいのちが守れるか心ばいになるからです。

学校で、交通安全教室がありました。はじめに、登校はんごとに、運動場にかかれた道ろをわたりました。手をあげて、

「右・左・右」

と、はんのみんなといっしょに声を出し、車が来ないか左右のかくにんをしながら、はん長さんのはたとふえの音に合わせて進みました。いくつか道ろをわたっているうちに、いつもは見られぬ、ほかのはんのような子も見る事ができました。それを見てみると、はん長さんがみんなのことを気にしながら歩いていることに気がつきました。見守りたいの方だけでなく、はん長さんもみんなのことを守ってくれているのだなと思いました。

次に、自転車の点けんの仕方、自転車の正しいのり方をチェックしました。自転車の点けんでは、タイヤに空気が入っているかを調べるだけでなく、ブレーキやサドルの高さなどについても調べるように教えてもらいました。その後、自転車の道ろの正しいわたり方を教えてもらい、じつさいにのつてみました。横だん歩道をわたる時は、自転車からおりておしながら歩いてわたることをはじめて知り、とても勉強になりました。今までは、自転車からおりずにのつたまわらつていました。ルールを覚えてもらったので、まちがえないようにしたいです。交通安全教室で学んだことは、これからの生活に生かしていきたいなと思いました。

交通安全教室の後、下校時のことを考えてみました。下校する時は、見守りたいの方がいません。子どもたちだけの下校になります。わたしのはんには一年生がいるので、六年生だけでなく、わたしもしっかり見守るようにしたいと思います。たとえば、横だん歩道や道ろをわたる時は、みんなでいっせいにわたったり、歩くのがおくれいたら、声をかけて前においつくようにしたりするのです。また、せまい道ろでも車はたくさん通る時があるので、左右をきちんとかくにんするようにします。これらのことをふだんからできるようにしていきたいです。見守りたいの方がいなくても、みんなのいのちが守れるよう、わたしにできることをがんばっていきたいです。

家族で守ろう交通安全

西条市立吉井小学校

四年 和田 星月

今年の交通安全教室で、自転車の走行練習がありました。小学校の周りの道路を実際に自転車に乗って走り、危険な場所や自転車の正しい乗り方を教えていただいたのです。その時に大切だと思ったことが三つありました。

一つ目は、左右をしつかりと確認することです。以前、友達といっしょに歩いて家に帰っているとき、交差点で車にひかれそうになり、ひやっとしたことを思い出しました。「危ない。」「きちんと左右を見るようにしなければ。」と思ったのです。自転車に乗っているときだったらもつとスピードが出ているので、左右を確認しないで飛び出してしまうと大きな事故になったのではないかとこわくなりました。

二つ目は、スピードを出しすぎないようにすることです。私はたまにスピードを出して自転車をこいでしまうことがあります。交差点やふみ切りの手前でうまく止まることができなくて、「しまった。」と思うこともありました。自転車の走行練習ではゆっくりと自転車をこいだので、交差点やふみ切り、信号のあるところなどできちんと止まることができました。その時から、意識して自転車をゆっくりとこぐようにしています。

三つ目は、ヘルメットをかぶることです。かぶるだけではなく、あごひももきちんと止めておくことです。事故にあったときにひもを止めていなかったら、頭にけがをしてしまうからです。

私たちの校区には、車のたくさん通る国道やふみ切りがあります。また、自動車一台通るのがやっつとというせまい道も多いです。交通安全教室で学んだことを生かして、事故にあわないようにしたいと思います。

私の家族もそれぞれに気を付けていることがあります。自動車を運転する母は、スピードを出さないようにすることと、あおり運転にならないように車間を空けて運転するように気を付けているそうです。私と同じで、きちんと止まることができるようになるためです。母といっしょに自転車に乗っているとき、私にも「スピードを出すと交通事故を起こすかも知れないから、絶対にスピードを出したらいかんのよ。」

と教えてくれました。自転車だけではなく、自動車も気を付けることは同じだと思います。

姉は、自転車に乗るときに早めにブレーキをかけてきちんと止まることができるよう気を付けているそうです。

ニュースなどで交通事故の場面をよく見ます。なくなった人の話を聞くと、自分のことではなくてもつらい気持ちになります。もし、自分の家族が事故にあったらと考えると、泣きたくなります。そんな思いをしたくありません。交通事故にあわないように家族みんなで話し合う時間を持ち、ついつい忘れそうになる大切なことを確かめ合い、これからもみんなが笑顔ですぐすことができるようにしていきたいと思います。

交通事故をなくすために

大洲市立平小学校

四年 宮崎 蒼菜

最近のニュースでは、子供が交通事故にまきこまれたことをよく耳にします。

今年の七月、千葉県で、下校と中の小学生の列にトラックがつつこみ、五人中二人が亡くなりました。運転手がお酒を飲んで運転をあやまり、大変な事故になってしまったのです。お酒を大量に飲みすぎると動作や反応がぶくなり、ふつうの運転ができなくなります。夜おそくまでお酒を飲んだ場合には、よく朝になってもお酒がこのこっているそうです。小学生は何も悪いことをしていません。大人は自分はお酒に強いからとか、一ばんねたからから大丈夫と思わず、絶対運転しないでほしいです。

他にも、二年前の四月に、東京都の池ぶくろで高れい者が運転していた車が赤信号をむししてぼう走し、八人も次々とはねた事故がありました。自転車に乗っていた三才の女の子とそのお母さんが亡くなりました。その車は、時速九十キロも出していることを知って、私はとてもこわくなりました。少しでも不安がある高れい者は、運転免許証を返して、バスやタクシーを利用したり、だれかに乗せてもらうなどしてほしです。

交通事故を防ぐために、私は日ごろから気を付けていることがあります。

まずは、自転車に乗るときにとばしすぎないようにすることです。

車も同じようにスピードが出ると、ブレーキをかけても急に止まれなくなつて車とぶつかつてしまつたり、曲がり角でバランスをくずしてこけてけがをするかもしれません。私は、ゆっくり乗る方なので、とばしすぎることはありませんが、これからも気を付けるようにして、もしだれかあぶない乗り方をしている友達を見かけたら注意してあげたいと思います。

次に、左右をかくにんすることです。私の家の近所には車がたくさん通る横たん歩道があります。待っていてもなかなか止まつてもえません。もう一つの信号がある横たん歩道でも、青になつていたとしてもかくにんするようにしています。以前、赤になつているのに車を通つているところを見かけ、とてもあぶないなあと思いました。私が大人になつて運転するときは、歩いている人や自転車に乗つている人にそのような思いをさせないようにしたいです。

通学路にもきけんな場所があります。登校する時私は、一番前になつていて、後ろに一年生がいます。一年生のお手本となるようにこれからもしつかりゆうどうしたいと思っています。

最後に、これ以上交通事故の悲しいニュースは見たくありません。私たち一人一人がルールを守つて事故をなくしていきたいと思ひます。

事を無くすために

西条市立西条小学校

五年 加藤 衣織

秋になると毎年、お母さんは同じ話をする。何度も聞いているので、もう話の内容はわかっているけど、お母さんが話すときに毎回泣いてしまうので、私はだまって聞く。

お母さんは、中学2年生のときに大事な友達を亡くしている。修学旅行に出発する前日、お母さんと里美ちゃん、幸子ちゃんの3人は明日からの旅行の話しながら家に帰っていた。3人で家の方向が違う幸子ちゃんの家をまわり、回り道をして帰ったそうだ。幸子ちゃんも少しでも長くおしゃべりしたいからと、自分の家は道路の右側だったけれど、2人が曲がる方向の左側を歩いていた。幸子ちゃんの家は国道沿いの美容室で、向かいの道路のわきの田んぼ道が近道で、そこで幸子ちゃんと別れた。お母さんと里美ちゃんが田んぼ道を歩いていると、すぐに「パーン」と大きな音がした。お母さんが家に着くと、電話が鳴り、里美ちゃんから、「幸子がトラックにはねられて二十メートルぐらい飛ばされた。今さつき救急車を通ったでしょう。幸子だよ。」と、連絡があった。

翌朝、全体朝礼で、幸子ちゃんのお母さんからのメッセージが読まれた。「幸子はけがをしただけで大丈夫。みなさん、修学旅行を楽しんでみてくださいね。」と。修学旅行中、幸子ちゃんはえん命そう置で命をつなぎ、修学旅行が終わった後、おそう式をしたそうだ。

お母さんはとても後悔している。通学路を通り、ちゃんと右側通行をしていれば、幸子ちゃんは事にあわなかったのではないかと。幸子ちゃんも横断歩道を渡っていなかったし、うかれていて左右の確認をしなかったのかもしれない。トラックのドライバーももっと目配りをしていていけばと思う。

交通事故で大切な命が一しゅんでうばわれてしまう。みんなが気を付ける事で事はへると思う。

通学路を通る、右側通行をする、左右の確認をして横断歩道を渡る、おしゃべりしながら広がって歩かない。大切な命を守るために、歩くときも自転車に乗るときも気を付けようと思う。

また、先生から「十秒考える。そうすることで、人生が変わる。」という話をしていただいた。この十秒考えることで人生が変わるとは、見通しの悪い交差点や交通量の多い道路を通行する際には、どのような危険が予想されるかを十秒考えるということだ。そうすることで、自分のその後の人生が大きく変わるということだ。十秒は短いようだが、危険を予測するには十分な時間だ。

さらに、おたがいに相手を思いやる心と時間によゆうをもつことも大切だと思う。相手を思いやる心をもつことで、交通違反がなくなるし、時間によゆうをもつことで、視野が広がり、危険を回ひすることができると思う。

私は、これらを守り、命を大切にします。そして、私自身も私のまわりの人にも悲しい思いは絶対にさせません。

思いやりを持つて

今治市立乃万小学校

六年 杉田 美羽

ブブブブブブ
ブブブブブブ

大きくクラクションの音が横断歩道にひびいている。

私は 小学校最後の夏休みにバトンポン部に入って練習している。その帰り道のできごとだ。

私は友達と歩いて帰っていた。目の前には横断歩道を走って渡っている同級生がいた。かぶっていた帽子が落ちたので、その子は急いで取ろうとしゃがんだ。

その時、右折をしようとしていた大きなトラックが見えた。私と友達は「あ！危ない！」と思ったが何もできず見ているだけだった。

信号待ちで、横断歩道の手前に止まっていた車のお姉さんもそれに気づき、クラクションをたくさん鳴らして、トラックの運転手さんや、その子に知らせようとしていた。帽子を取ろうとしゃがんだ子は、その状況におどろいたのか、何もできず動けずにいた。私たちも、こわくて見ていることしかできなかつた。トラックの運転手さんも気づいていたのか、気づいたのか、横断歩道の前で止まってくれた。その子は、帽子をひろい横断歩道を渡りきり、クラクションを鳴らしてくれたお姉さんに何度もお礼とおじぎをしていた。お姉さんも、大丈夫とジェスチャーで応えてくれていた。

私は、いつまでもドキドキしていた。目の前で起こったできごとの

こわさと、何もおこらなかつた安心感で少しふるえてしまった。

いざ、自分がその状況になると、体が動かず何もできなくなるんだらうなと思つた。

左右をよく確認し、気をつけて横断歩道を渡つても何が起るかわからない。何か落としたら、何も考えず何も確認せずひき返すと思う。しゃがむと、大きな車からは私たちが見えなくなることも知らなかつた。

帰つて母にこのことを話した。交通量の多い横断歩道が通学路なのでいつも心配している。何度も何度も気をつけるように言われている。

今回のことがあり、また交通マナーなどについて話し合つた。車は急に止まれないこと。車には見えない死角というものがあること。大きなトラックからはしゃがんだり小さくなると見えないかも知れないこと。物が飛んでいたり、落ちてても急いでひき返さないこと。

まずは自分の命を一番に考えること。命を守ること。大切にすること。最近、登下校中の小学生に車がつっこみ、巻きこまれる事故のニュースをよく見る。

交通ルールを守つていても、事故に巻きこまれることがあるというのはとても悲しいことだ。

私は来年から中学生だ。自転車通学になる。ヘルメットをかぶり、気をひきしめ、安全に気をつけようと思う。

そこで全ての運転手さんにお願ひがあります。時間に余裕を持ち、安全運転を心がけて下さい。お互いの思いやりと交通マナーで悲しい事故はなくしましょう。

みんなが「ただいま」と無事に家に帰れますように。

事故のない街づくりへ

鬼北町立近永小学校

六年 川上 夏

最近、登下校中の小学生の列に車が突っ込んだというニュースをよく聞く。その度にわたしは、「またか。」と思う。母は、事故の話を聞くと、私と兄に、

「どれだけ自分たちがルールを守っていても、事故は起きてしまうものなの。だから、周りを見て行動しなさい。」

と言う。でも私は、「事故なんて、よりによって、身の回りで起きることなんてないでしょ。」と心の中で思っていた。

するとある日、いつも通り学校から帰宅すると、父が事故にあったと母から言われた。私は、胸がドキッとした。父が信号待ちをしていると、高齢者ドライバーが後ろからぶつかってきたという事故だったそうだ。父は軽い打ぼくですんだが、今でも、もし命に危険があったらと考えただけで、心臓が飛び出しそうな気持ちになる。

私は、父の事故を通して、三つ学んだことがある。

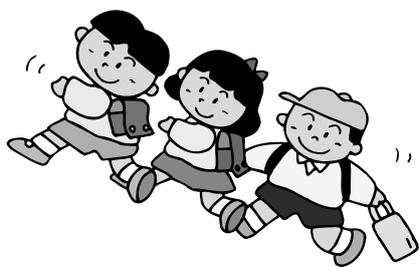
一つ目は、危険は身の回りにあふれており、油断するひまがないということだ。母が言っていた通り、自分がルールを守っていても、事故が起きるといふこともある。「自分だけなら大丈夫。」という気持ちが集まれば、大きな事故を招いてしまうことがあることを、改めて考えさせられた。

二つ目は、世の中には、様々な人が運転をしているということから分かなければならないということだ。若い人や高齢者、体が丈夫

な人や体が不自由な人。運転をするすべての人が、安全に、楽しく運転してほしいと私は思う。みんながそのように運転するには、相手を敬い、ゆずり合って運転をすれば、もっと安全だと思う。「若葉マーク」「シルバーマーク」などのような周りの人に自分のことを知らせるステッカーもあるので、ちゃんと活用すると良いことが分かった。

三つ目は、自分たちが今すぐにでもできることを実行することだ。簡単なことだが、ヘルメットを正しくかぶる、横断歩道は自転車をきちんとおりて渡るなど、身近なことから取り組めば良いと思う。もしかすると、自分が自転車に乗っていて事故を起こしてしまう場合もあるかもしれない。相手にけがをさせた場合、責任は自分にある。子どもだから大丈夫、許されるという考えをなくし、自転車は車両であるということを考えて乗りたい。

私は、大人だけがルールにしたがうのではなく、子どもも自覚を持ち、一人の人間として恥ずかしくない行動を心掛けることが大事であるとよく分かった。交通安全に年齢は関係ない。だから私は、どんな時も安全を心掛けたい。



登校班長として

愛南町立城辺小学校

六年 中尾 優月

最近、テレビで、たくさん交通事故のニュースを見ました。千葉県では、飲酒運転の車が、たくさん小学生の命をうばう事故がありました。私たちの住む愛南町でも、去年とても悲しい事故がありました。事故のニュースを見たり、思い出したりするたびに、身の引きしまる思いがします。それは、今年から登校班の班長を務めているからです。

私は、六年生になって、登校班長を務めることになりました。初めは、「一年生のペースに合わせてしっかりと歩けるかな」、「みんなが私の言うことを聞いてくれるかな」、「事故なく毎日登校できるかな」など、不安でいっぱいでした。

そんな中、私心がけたことは、後ろから車が来ていないかを確認すること、みんなが一列に並んで歩いているかを確認すること、みんなが横断歩道を渡る時に左右を見ているか確認すること、手を挙げて無事に渡り切れているかを確認することです。これまでは班長について歩くだけでした。今年班長になってみて、こんなに確認することが多かったのかと、びっくりしました。

みんなのことを考えて、班長として、一生けん命歩いていたつもりですが、一学期、ひやっとしたことがあります。私の登校班には、耳が聞こえにくい子がいます。学校の先生からも、

「車が来ていたら、横断歩道の前では必ず止まってね。他にも、いろ

いろな場面で気を付けてあげてね。」

と言われていました。だからこそ余計に気を付けて歩いてきたつもりですが、ある日、私が車に気付いて止まったのですが、その子は、私たちの声に気付かず、横断歩道を渡ろうとしてしまいました。幸い、車に乗っていた人が気付いて、止まってくれたので、事故にはなりませんでした。私は、この車が止まらなかったことを考えるとこわくなりました。その子は、大けがをしていたかもしれません。先生に伝えると、

「これから、飛び出しそうになったら、うでをつかんで、渡るのを止めてあげて。」

と言われました。今後、同じようなことがあったら、そうしたいと思えました。自分の班の友達の一人一人の特性も考えながら、安全に登校できるように気を付けていきたいと思えます。

班長になった私は、たくさんすることを学びました。初めは、不安でいっぱいでしたが、こうやってたくさんさんのことを考えられたので、班長になってよかったと今は思います。これからも、班長として責任を持ち、卒業するまで、みんなが事故に合うことなく、安全に登校できるようにがんばっていききたいと思えます。



【中学生の部】

「ごめんなさい」ですまない命

四国中央市立土居中学校

一年 齊藤 空愛

大きな交差点にバキバキに折れまがった原形のない車、ど真ん中にやぶけた麦わらぼうし、その光景をテレビ越しで母と見ていた。

「お母さん。すごい事故起きてるよ。」

「えっ。けがしている人いっぱいいるんじゃないん。」

そう声をかけられ、返そうとした時、親子の笑顔の写真に画面が切り変わった。

それと同時に親子二人死亡という見出しが見えた。小さい三才ぐらいの子供とその子のお母さん。車を運転していたのは八十九歳のつえをつかないと歩けないおじいさん。

私はこのニュースを見てすごく心が痛くなった。大切な命が二つもうばわれてしまったと考えたからだ。家族三人の写真が出てきた時、命と共に、三人で作っていくはずだった思い出もこれから作ることができないんだなと思った。

しかし、身近な事だと捉える事ができなかった。だから、母に、「事故で人が亡くなったりするニュースをいっぱい見るけど、あんまり身近に感じられんな。なんでだろう。」

「自分だと考えてみな。今、あなたは自転車で学校に行ってるやん。で、自分が相手（歩行者）にけがをさせてしまったらどうする。」

と言った。私は、

「申し訳なくて、すごく反省するし、『ごめんなさい』って謝る。」
と言った母は、

「じゃあ、もしあなたがけがをさせてしまって、相手が亡くなってしまったら……。」

私は返す言葉がなく、詰まってしまった。

「ほら『ごめんなさい』で相手の命を取り返せないじゃん。乗っているものが車でなくても相手が亡くなることだってあるのよ。しっかり考えなさい。」

『ごめんなさい』で相手の命は取り返せない。そうだなと強く思った。自分がという気持ちを持つとニュースを見て感じた時の感情といろんな感情が心の中に浮かんできた。

では、事故はなぜならぬのだろうか。その疑問に私は、周りを見て身近に感じた、「自分だったら」の思いを持つことが大切で一人一人にこの意識を持つてほしいと考えた。車だけでなく自転車もそうだ。みんなの大切な命を、自分の命を守っていくことにつながるのではないだろうかと思つた。

このニュースや母の話から自分に危機感を持つとうと思った。自分もけがをせず、相手にもけがをさせないように意識を高めていきたい。いや、高めていく。

大切な命の一つでも多く守っていくために車だけでなく、自転車に乗っている人なども事故のない生活を一人でも多く続けていけるよう、自分ができることをこれから考えていきます。

交通事故を日げきして思うこと

新居浜市立南中学校

一年 和泉 滯央

私がまだ小学校にあがる前、兄の交通事故を目の前で見てしまいました。私の祖母の家は、私の家から道を一本渡るだけの近所です。兄はもちろん私も小さい頃から、毎日のように行き来していました。その日も私は、先に祖母の家で過ごしており、外で祖母と兄が来るのを待っていました。家から出て来た兄は祖父の姿を見つけ、そのまま道に飛び出していました。その時、ちょうど車が来ていてぶつかってしまいました。住宅街の中の道ということもあり、車があまりスピードを出していなかったので事故にはなりませんでしたが、兄が車にぶつかるといふ瞬間を目の前で見てしまった私は、今でも思い出すことがあります。身内が目の前で事故にあったということ、交通事故への考え方も変わりました。事故は、突然起きるといふこと、誰にでも起こりうるということを実感しました。

テレビで交通事故のニュースを見るたびに悲しい気持ちになります。様々な状況での事故がありますが、一番許せないのは飲酒運転によって起きる事故です。お酒を飲んだら車を運転してはいけないということ、誰もがわかっていることなのに、なぜ飲酒運転をしてしまう人がいるんだろうと思います。きっと、自分は大丈夫、少しぐらいならという思いで車に乗ってしまうのかもしれないけど、その一瞬の気持ちの油断が大変なことを起こすかもしれないということを考えてほしいです。一回の事故で数えきれないほどの人が嫌な気持ち

ちになり、悲しい思いをします。一人一人が少し気をつけることで、そんな思いをしなくてよくなるのではと思います。

交通事故をなくしていくためには、それぞれの人のちょっとした思いやりが、大切だと思います。歩く時や自転車に乗っている時は車に対して迷惑がかからないように、車に乗っている時は、歩行者や自転車を少し意識することだけでだいぶ違うと思います。歩く時は、左右確認をしつかりし、歩行者道路を歩く、自転車に乗る時は、ヘルメットをかぶり、夜はライトをつけ、決められた所を走る、車に乗っている時は、運転に集中し、交通ルールを守るなどといった、あたりまえのことを全員が心がけると悲しい事故は減っていくと思います。事故は、いつ起こるかわかりません。自分が気をつけていても事故にあうかもしれません。しかし、一人一人の意識を少し変えるだけで、事故を減らすことができるのであれば、私は気をつけていきたいと思っています。

最近になって、保育園での交通安全教室で教えてもらった、道路を渡る時の約束の『トマト』という言葉思い出しました。トまって、マッて、トびださないという約束です。大きくなるにつれて、この意識が少しずつ適当になっていくことに気がつきました。時に慣れた道になると、大丈夫という思いが強くなり、油断している所がありました。兄が事故にあったのも渡り慣れた道路です。慣れた道こそ気をつけていかなければと思います。大きくなるにつれ、歩くより自転車に乗ることが増えていきます。自転車だと、ますます歩いている時よりもしつかり止まることが減っています。意識していかなければと感じました。また、今後大人になると車を運転するようになると思います。その時は、交通ルールをしつかり守っていこうと思

ます。成長と共に主となる交通手段が変わってきませんが、守るべきことをしっかり守り、交通事故を起こさないようにしていきたいです。

交通事故発生状況を調べてみると、発生件数は毎年のように減ってはきているようですが、交通事故ゼロにはまだまだほど遠い数字でした。また、全事故のうち自転車乗用中の事故が二割も占めているということに驚きました。中学生になり、自転車に乗ることが増えているので、交通ルールを守り、あたりまえのことをしっかり意識していかうとあらためて思いました。

人それぞれが、それぞれの立場で気をつけていき、悲しい事故が少しでも減ることを願っています。



私の「交通安全」

西条市立丹原西中学校

一年 余吾 舞果

「ああ、怖かった……。」

家の近くの坂道を下った所にある交差点。あの日、私は自転車に乗りながら、考え事をしていました。交差点が近付いてきたのに、いつもよりブレーキを掛けることが遅くなり、私は慌ててブレーキを握りしめました。しかし、停止線できちんと止まるべきなのに間に合いませんでした。自転車は五十センチほど交差点に入ってしまったように思えました。そこに私の右側から、大きな影が飛び込んできました。急いで目をやると、トラックが止まっています。私とトラックの距離は、一メートルくらいだったと思います。どぎまぎしながら急いで自転車をバックさせ、トラックの運転手に頭を下げました。足が震え、心臓が飛び出しそうなくらい激しく高鳴っていて、トラックが通り過ぎた後もしばらく収まりませんでした。あと一秒、あと一歩でも遅かったら、と思うと、危なかった瞬間のことを何度も思い出してしまい、その日は怖くてなかなか寝付けませんでした。私は、幼い頃、左右を確認せずに道路に飛び出し、危うく自転車に衝突しそうになったことがあります。その怖かったことも浮かんできました。どうして運転に集中できないんだろう。今まで、家でも学校でも、交通安全について何度も話をしてもらっているのに。交通ルールをいつも守ることは、当たり前のことなのに。今の私には危険を回避するための意識が足りていないんだ。交通事故に遭っていないことで、私は交通安

全について他人事のように考えてしまっているのではないか。今回の経験から、私は交通安全について改めて考えなければならぬのだと強く感じました。

この六月、市内で交通事故がありました。この事故で、私と同じ中学一年生の尊い命が失われました。六月といえば、中学校生活に少し慣れてきて、勉強や部活動などに具体的な目標が生まれる、希望にあふれた時期だと思えます。そのような時に、突然命を失うということは、亡くなった中学生にとって言葉では言い表せないほどの無念なことだったと思います。

また、同月千葉県でも飲酒運転によって小学生が命を奪われたり、重体になったりした交通事故が起きました。何も罪のない人々が交通事故に関わることで、被害者や加害者だけでなく、関係する人々の人生が一瞬にして大きく変わってしまいます。なぜ、多くのこのような悲しい出来事がなくならないのでしょうか。それは私も例外ではなく関係していることですが、「不注意」や「心得違い」の積み重ねが招いたことだと思えます。交通マナーや交通安全への意識が正しい加減になり、それが重なることで交通事故は簡単に起きてしまう。このことを絶対に忘れてはならないと思います。

この世に失われてよい命はありません。しかし、交通事故はいつ起きるか分からないものです。そこで、全ての命を交通事故から守るために、全ての人々が細心の注意を払いながら運転や通行をすることが必要です。私たち人間が運転や通行をする前提として、「命」を守ることに主体的に関わっているという自覚がなければなりません。今こそ、全ての人が、安心、安全な交通環境作りを見直し、大切な命を互いに大切にしようべきです。私も思いやりにあふれた

温かい交通環境作りのために、家を出るところから家に帰るまでのあらゆる場所で、常に交通ルールを大切にし、自分だけでなく、周りの歩行者や運転手の人たちにも温かい意識を向けながら、互いに安全に通行できるよう、働き掛け続けていきたいと思えます。



「ただいま」と言える毎日を

松山市立雄新中学校

一年 水口 結愛

「行ってきます。」

晴れの日も雨の日も、どんなに急いでいても機嫌が悪くても、家を出る時には玄関先で必ず私は声をかける。同時にここへ無事に帰って来れるようにと気を引きしめて一歩を踏み出す。

昨今、新聞やテレビで交通事故のニュースを目にしない日はない。自動車による衝突事故や、横断中に人をはねてしまう事故、巻きこみ事故など、事故の状況は様々だ。中には飲酒運転やひき逃げなどのとても悪質で許し難いものも多い。どの事故もとてもショッキングであり胸が痛む。

愛媛県内の交通事故の原因別発生状況を見ると、不注意による事故や交差点での事故、また交通ルール違反によってひき起こされる事故件数がとても多いことが分かる。時間帯でみると午前八時頃と午後四時頃に多発している。通学通勤で最も多くの人が移動する時間であり、先を急いだり、あせりを感じたりしている時間である。事故は、注意が散漫になっているとき、心の余裕をなくしているときに起こっていると感じる。これらの交通事故を防ぐことはできないのだろうか。

思いうかぶのは母の姿である。私も時間に追われ、慌てて家をとびだそうとすることがある。そんな時の私の「行ってきます。」を聞いた母は、すぐに玄関までとんでくる。そして、「慌てず行き

なさい。急いでも変わらないから。」と何度も何度も強く言う。おかげで、私はちよつと落ち着きを取り戻す。きつと出かける本人よりも見送る母の方が、不安や心配が大きいのだろう。そう思うから、私が帰った時「ただいま。」と元気に声をかける。それを聞いて「おかえり。」と応える母のほつとした様子が伝わってくる。そして私も無事に帰れたことにほつとする。毎日の家での声かけは、我が家の事故防止につながっている。

そんな我が家だが、事故と無縁だったわけではない。弟が自転車に乗っていて体中けがをして帰って来たことがあるのだ。出血と壊れたヘルメットを見た時には血の気が引いた。友達と十分な間かくをとらずに走行していた弟は、バランスを崩した友達と接触し、自転車ごと川へ落ちてしまったのだ。不幸中の幸いとおうか、ヘルメットをきちんと着用し、整備された自転車に乗っていたため、大事には至らなかったが、今思い出してもひやつとする。「大丈夫だろう。」という判断ミスと不注意によりケガをってしまった弟を見て「かもしれない。」という危険を予測する意識をしつかりと持たなければならぬと思った。同時に、安全な乗り物に乗ることの大切さや、ヘルメット着用などの決められたルールを守ることの重要さを改めて感じた。

私は中学校で自転車の点検を受けている。ヘルメットは準備されているか。ブレーキはきちんとかかるか。タイヤの空気は入っているか。ベルは鳴るか。ライトは自動でつくか。全ての項目をクリアしなければ学校へ乗って行く許可は下りない。許可が下りて、自分の自転車が安全であり、安心して乗れると確認できた時はほつとしたしうれしかった。

また現在愛媛県では自転車に乗る場合には自転車保険への加入が義務づけられている。これは被害者救済と加害者の経済的負担軽減のためであり、どちらの立場にもなり得る自分自身を守るためのものだ。どんなに気を付けていても、どんなに備えていても、思わぬ事故にあってしまうこともある。事故にあわないように心がけると共に、もしもの時に備えることも必要だと思う。ありとあらゆる方策をとって事故を防ぐことが大切なのである。

私が一番許せないと思うのは、ルールを無視した危険運転による取り返しのない事故だ。自動車だけではなく、子どもから大人まで誰もが乗れる自転車でも重大事故は起こる。飲酒や不良自転車の使用、かさ、スマートフォン、イヤホンを使用しながらの運転、そして最近よく耳にするおおり運転。どの行為も自分勝手であり周りへの配慮に欠けている。このような行動が、防げるはずの事故を重大事故へと変えてしまうのだ。自転車にも細かいルールが定められていることを周知し、みんなを守っていかねければならない。

ほんの少しの気のゆるみや不注意が積み重なり、ほんの一瞬でさけられたはずの事故が現実になってしまふ。あの時こうしていれば防げたのにと悔やんでも遅いのだ。事故は今までと全く違う生活に人を追いやったり、時には大切な命を奪ってしまうこともある。一瞬にしてその人生を変えてしまうのだ。

ルールを守り、ゆずり合い、思いやりの心をもって行動するところが、交通事故防止になり、大切なものを守り、明るい未来へとつながっていくのだと思う。

「ゆとりある行動と道徳意識を持とう」

愛媛大学教育学部附属中学校

一年 中野 眞由

「準備ができたなら早めに出なさい。」「車や自転車には気を付けてよ。」

「わかってるよ。毎日言われなくても、私中学生になったし、大丈夫やけん。行ってきます。」

これが、毎日学校に行く前に母と話す言葉だ。私は、いつも気を付けて行っているのに、何かと母は心配して声掛けしてくる。私は安全に毎日を過ごすことができているが、現在毎日といっていいほど、事故が起こり、報道もされている。そして、不運なことに事故にあつて亡くなっている人もいる。事故には、飲酒運転や居眠り運転、おおり運転、逆走といった誤った運転によるもの、高齢者、若年者に多い運転操作不適によるもの、また、私達中学生に多い通学途中の自転車事故など様々だ。事故のニュースを見たり聞いたりすると、怖いなと思いつつも、自分には関係がないような気がし、人ごとのように私は思っていた。しかし、中学生になり通学方法も変わり、いろいろな危険行為を見ることが、交通安全に対する意識が変わった。命を大切にしなければいけないと思うようになった。

交通事故は、起こした本人の他、被害者やまわりの人を不幸にする全てをなくすことができなくても、少しでも交通事故の件数を減らすことが出来れば、不幸になる人達が減るのだ。私が実際通学途中に見た危ないと思う例と、それへの対策を考えてみた。

まず、通学途中によく目に付くのが、携帯電話の使用だ。車運転中はもちろん不可だが、歩きながら携帯電話をいじっている人は多い。自転車に乗って器用に携帯使っている人を私は見たことがある。携帯電話を操作していると画面に集中し、周りが見えなくなったり、周りの音が聞こえなくなったりして、事故の起こる確率が高くなると思う。歩きながらの携帯は危険だということ、お互いが注意できるように社会になれば事故の減少にもつながるのではないかと思う。

次にやはり自転車の乗り方だ。急いでいるせいか、一時停止や譲り合いができていないように思う。特に曲がり角や、歩行者との接触には注意が必要だ。私自身も曲がり角から急に自転車が飛び出してきてぶつかりそうになったことがある。私たち中学生の登下校中の交通事故の割合は、自転車通学中に起こるケースが一番多いそうだ。自転車も車と同様安全運転をすることが事故をなくすためには大切だと思う。正しい乗り方、マナーを今一度確認する必要があるのではないかと思う。

そして、横断歩道の渡り方だ。横断歩道は交差点をはじめ、様々な場所にある。一般的に歩行者は、信号をしつかりと守り横断歩道を渡れば事故は起きないが、交差点での事故が多く報道されている。原因は、車の不注意などが多いが、たまに歩行者の行動が原因となる事故もある。信号無視や、横断歩道がないところを渡るという行為だ。実際私もよく見かける。「車が来ない。」や「時間がない。」などと簡単に考え、周りをよく確認せず車道に進入すれば、突然曲がってきた自動車や自転車などと衝突し、自分が大けがをするだけでなく、衝突した自動車や自転車の運転手が結果として責任を負わされ、他人にも迷惑がかかることになる。「油断大敵」という言葉があるよ

うに、自動車や自転車よりも歩行者が優先だと油断していると、事故になる確率が高まる。このように交通事故は、自動車や歩行者の不注意などにより、自分が大きな損失を受けるだけでなく、他人にも迷惑をかけ多くの人々を不幸にする。それは、決して人ごとの話ではなく、いつ自分自身に起こってもおかしくない身近なことなのだ。

私は毎朝母が声掛けしてくれるのも、私の安全を願いつつ、まわりにも迷惑をかけてはいけないという気持ちからいつてくれているのだと思うと、うれしい気持ちで満たされた。

また、それだけではない。地域の方、警察の方も私達の安全を見守ってくれている。感謝の気持ちを忘れてはいけないと思った。安全に毎日が過ごせること、母の言葉を無にせず突然起こる事故を防ぐためにも、注意を持って行動したい。

いくつか私になる事例を述べたが、交通事故の防止にもっとみんなで関心を持ち、その危険性をしっかりと理解し、一部の人間だけでなく、一人一人が事故を出来るだけ起こさないように意識して行動していけば、交通事故を減らすことにつながり、不幸になる人たちが少なくなると思う。私たちに求められているのは、それ程難しいことではない。一人が本来身につけている道徳意識を守っていけば解決していくと思う。自分自身で身の安全を守り、また守ってもらいながらみんなが尊い命を全うできるよう、交通安全に努めたい。

交通ルールを守ること

松山市立拓南中学校

一年 中野 日葵

数年前、車に乗っていた祖母といところが事故に遭いました。後ろから追突されたのです。幸い、大きな事故にはなりませんでしたが、祖母はその事故で首を痛めてしまいました。そして、

「車の運転が怖い、横から少し車が出てきただけでドキドキする。」と話していました。その話を直後に聞いた私は、もっと大きな事故になっていたら・、自分もその車に乗っていて大けがをしていたら・、と考えると、怖くてたまりませんでした。

私は今まで、交通事故に遭ったことはありません。けれども、習い事に行くときや、友達と遊びに行くとき、自転車に乗っていて危険を感じたことが何度かありました。

例えば、交差点で信号待ちをしていたとき、黄色信号になったとたん速度を上げて走り抜けていく車を何度も見ました。赤信号になった瞬間に猛スピードで横を通っていった車も、残念ながら何度も見えています。私が将来車を運転するようになったときは、周囲をきちんと確認し、安全な運転を心掛け、決して危険な運転をしないようにしよう、と強く感じました。

他にも、友達と歩いて習い事に行こうとしていたとき、高齢者が乗っている自転車とぶつかりそうになったこともありました。そのときは、危ないな、と思うだけでしたが、今振り返って、一歩間違えたら大きな事故につながっていたかもしれない、と思うと、本当に怖いで

す。それに、もし、自分が自転車側で相手が歩行者でぶつかった場合は、私が加害者、相手が被害者になってしまうこともあると思います。テレビでも、大変な金額の賠償金を支払わないといけなくなるという聞いたこともあります。決して、他人事ではないのです。だからこそ、私は自転車に乗るときは、きちんと左右を見たり、ぶつかりそうにならないように、スピードを出さず、角では止まるようにしています。

自転車に乗っているときだけでなく、母の運転する車に乗っているときにも、怖い思いをしたことがありました。それは、三年前、母と私、弟と祖母とで今治に買い物に行こうとしたときです。目の前の信号が青になり、直進しようとしたときでした。突然、自転車が横から飛び出してきたのです。

「わあー危ないっ！」

という母の声に、後部座席に座っていた私は本当に驚いたのですが、もしも、母が気付くのが遅れて急ブレーキが間に合わなかったら・、もしも、シートベルトをしていなかったら・、と思うと、今でもぞつとします。

「さっきの自転車、ホントに危なかったよね！」

など、危ない思いをしたあとの車の中で、しばらく気持ちが落ち着かず、その自転車のことばかり皆で話していたのを覚えています。この出来事は、もう三年もたつのに、今でも強烈に私の脳裏に焼き付いています。

このように、家から一歩出ると、私たちの周りにはたくさん危険が待っていて、いつ誰が事故に遭っても、不思議ではありません。交通ルールを守ってくれる人ばかりではないのです。だからこそ、自

分の命を自分で守るためにも、私は次のことをいつも気を付けていきたいと考えています。

それは、「乗り物に合わせて、自分を守るための気持ちや準備を心掛ける」ということです。自分がもし歩行者だったら、曲がり角や横断歩道では必ず左右を確認し、決して飛び出しをしないように心掛けています。友達と話しながら歩いているときは、つつい気がゆるんでしまいますが、気付くたびに気を引きしめるようにしています。そして、自転車に乗るときには、ヘルメットを必ず着用し、スピードを上げすぎない、ということについても、私だけでなく友達とも、これから声を掛け合っていきたいです。そうして、被害者はもちろん、悲しむ人が必ずいます。交通事故で、辛い思いをして欲しくありません。車に同乗するときにも、シートベルトをしっかり締めます。

交通ルールを守ることは、自分だけでなく、家族や友達の命を守ることもつながっていきます。大人になったとき、私は母のように車を運転したいと思っています。そのとき、何となく、ではなく、しっかりと交通ルールを学んで理解し、守れる大人になっていきたいです。そして、一日一日を大切に生きていきたいです。



ながら運転

松山市立拓南中学校

一年 楠本 唯衣

スマートフォン画面を見ながら、自転車に乗っている高校生。スマートフォンを耳にあて、会話をしながら曲がり角を曲がるドライバー。残念ながら、よく見掛ける「ながら運転」です。この「ながら運転」は、他人に不快な思いをさせたり、迷惑を掛けたりするだけでなく、時には他人を巻き込んだ大きな事故にもつながります。

小学生の私と母、祖母と買い物に出かけたときの事です。母の運転する車の前に、隣の車線から一台の車が急に車線変更してきたのです。私は驚き、思わず大きな声を出してしまいました。よく見ると、ドライバーはスマートフォンを見ながら運転していたのですが、その車はそのまま前方の一台の車にぶつかっただけでなく、さらにもう一台ぶつかり、事故を起こしてしまっただけです。幸い、私たちの乗っていた車は直接巻き込まれませんでした。狭い道路だったため、すぐに動くことが出来ず、本当に迷惑でした。その事故を見て、運転中に意識をそらしたことが事故につながるのだと思いました。事故を起こしてしまった人は、相手にけががあってもなくても、一生、その事故の記憶を感じながら生活していかなければいけません。事故を起こしてから、どれほど後悔しても遅いのです。けれども、「自分は大丈夫だろう。」という甘い気持ちで、まだまだたくさんの方がながら運転をしています。そして、たまたま事故にならず、危ないと感じることもなかっただけなのです。

車だけでなく、自転車や歩行者にも、そのような人は増えています。何かを運転していないから大丈夫、ではないのです。スマートフォンに集中してしまうと、思わぬところで迷惑をかけたり、事故にもつながってしまったりすることもあるのです。

実際、私が父の運転する車で買い物に行つたとき、信号で止まっている若い男性がいました。横断歩道の手前で待っている様子でしたが、青信号に変わつてもなかなか歩こうとしないので、その様子を窓から見ると、やはりスマートフォン画面に集中して青信号に気づいていませんでした。信号が赤に変わった時、その若い男性が横断歩道を渡ろうとしたのです。スマホに集中しすぎて信号など見ていなかったのでしょうか。父も気づかすためにクラクションを鳴らしていました。その男性は慌てて戻っていました。とても迷惑だったのを覚えていきます。このように考えてみても、私自身も急いでいるときに連絡をしながら歩くことがあります。事故にあつたことはなくても、今振り返ると、周囲に不快な思いをさせたり、知らず知らずのうちに迷惑をかけてしまつていたのではないかと考えます。このようなことが、さまざまな場所で見られるのではないのでしょうか。私もそうだったように、「自分の行動を気をつけよう。」と繰り返して言われても、一人一人が自分のこととして考えない限り、何も変わらないのです。どんな機会でも、「想像し、考えること」を意識しようとする時間が、安全な社会へとつながっていくのだと思います。

私は、自分のことだけでなく、自分の周りにいる相手の気持ちをよく考え、行動に移せるようにしていきたいです。自分だけでなく、友達にも、後で後悔しない・させないように、真剣に注意していきたいです。私は将来大人になり、運転もすると思います。車を自分

で運転するようになったら、交通ルールをしっかりと守り、他人に迷惑をかけず、事故を起こすことがないように運転したいです。

事故は起こしたくて起こす人はいません。この世の中で、事故が起きなくなっていくように、意識して生活し、一つしかない命を、自分も、周りも大切にしていきたいです。



生活安全委員になって思うこと

四国中央市立川之江南中学校

二年 稲岡 柚那

私は、生活安全委員になって、一ヶ月に一度交通当番をしています。交通当番というのは、先生と生徒、地域の人が協力し、学校の近くの横断歩道に立ち、横断歩道を渡ろうとしている自転車や歩行者が来た時に旗を上げて、生徒の安全を守る事です。その横断歩道では、その取組を始めてから事故は起こっていないそうです。

交通当番をしていて感じたことがあります。それは、当番をしているときは、ほとんどの車は停止するけれど、普段の生活の中では停止する車はほとんどないという事です。私自身、横断歩道をなかなか渡る事ができなかったり、危険を感じたりした事もありました。道路交通法では、横断歩道を渡ろうとしている歩行者がいる場合、「車は一時停止しなければならぬ」と定められています。違反した場合の違反点数は二点で、反則金は普通車なら九千円。刑事罰は3月以下の懲役または五万円以下の罰金となっていますが、この規定はあまり守られているとは言えないのが現状のようです。日本自動車連盟（JAF）が二〇二〇年、四十七都道府県で信号機のない横断歩道を二ヶ所ずつ選び、計九四三四台の車の通過を調べたところ、一時停止率二一・三%にとどまったという結果でした。同様の調査は二〇一六年から行われており、八〜九割は止まらないという結果が続いています。愛媛県の一時停止率は全国平均よりもさらに低く、十四・五%にとどまっております。歩行者が被害となる交通死亡事故が多発し、亡

くなった十九人の歩行者のうち七人は、横断歩道横断中に事故に遭って亡くなっています。

運転手は車中心の自分勝手な意識で道路を走っているのではないかなと思います。そういった運転手が多いと感じる中で、私はどうすれば一時停止してくれるかなと考えました。私が横断歩道を渡りたいと思った時に、手を挙げずに待っても止まってくれないけれど、手を挙げて待っていると止まってくれた経験があります。運転手がルールを守らないといけないのは絶対だけど、歩行者も渡りたい意志を運転手に知らせるように手を挙げて待てば、止まってくれる運転手も増えるのではないかなと思いました。私は運転手と歩行者お互いの思いやりが大切なのかなと感じました。

交通安全は、一人一人の意識がとても重要だと思います。私が被害に遭う可能性もあれば、私の家族も車を運転するので加害者になる可能性もあります。家族には「交通ルールを守って運転してね。」と伝えました。これからも私は交通ルールを守っていききたいと思いました。車を運転する大人にはそれ以上にルールを守ってもらいたいと思います。そうすれば救えた命も沢山あるはずです。私は交通当番をしている横断歩道だけではなく、全国で事故がなくなることを願っています。そして、将来、自分が車を運転するときは、交通ルールをしっかり守りたいです。

油断していませんか

新居浜市立西中学校

二年 大林 あおい

愛媛県交通安全協会によると、令和二年中、全国で三十九万九千七百七十八件の事故が起り、死者は二千八百三十九人、愛媛県内では二千四百四件の事故が起り、死者は四十八人だそうです。また、県内の人身交通事故は、一日平均六・六件発生しているそうです。そして、私が住んでいる新居浜市では、令和二年中、二百三十二件の事故が起り、五人が亡くなり、二百六十五人がけがをしていました。私はこれを知って、意外でした。自分が知らないところで、こんなたくさん事故が起っているとは思っていませんでした。

事故の加害者の割合で多いのが、高齢の方です。理由の一つとして、高齢になると、自分で思っているより、判断力や体力が落ちていくことが挙げられると思います。そんな時、身近にいる家族が、運転について話し合ってみたり、優しく免許証を返納することを勧めたりできれば、事故も減り、つらい思いをする人も減ると思います。私にも、車が大好きな祖父がいます。とても運転が上手で、祖父が事故を起こすなんて、考えられません。けれど、自分にとって大切な人ほど、大丈夫だろうという、甘い判断をしてしまいがちだと思います。だから、祖父自身のためにも、一度話してみたいと思います。高齢化が進んでいる社会で、これからもっと事故が増えてしまわないように、みなさんにも家族と話してみしてほしいです。

一方、若い方が事故を起こすことも増えてきています。新居浜市で事故が多発している時間帯は、午後四時から午後六時の時間帯です。この時間帯は、仕事が終わわり、家に帰っているドライバーが多いと思います。家に早く帰りたい気持ちですが、事故の引き金になっているのではないかと感じました。若いドライバーの特徴は、自分の感情が運転にそのまま表れる、感情的な運転をする人が多い、だそうです。私は小さい時、ドライブしていて、他の車に追い抜かれると、運転している家族に、「追い抜き返そうよ。」と言ったり、渡れそうなの赤信号でストップした時に、「渡れてたのに。」と悔しがったりしていました。若いドライバーの特徴に、自分がぴったりと当てはまっていることに怖さを感じました。将来、車を運転することがあると思います。その時は、自分の感情に振り回されず、冷静な運転を心がけたいです。

感情的な運転といえば、令和二年六月三十日から免許取消処分の対象に追加された、あおり運転が思い浮かびました。テレビで実際の映像を見ると、本当にあんな運転をする人がいるのかと目を疑うような、信じられない気持ちになります。しかし、誰にでもイライラしている時はあると思うし、普段ならイライラついたりしない事に、イライラしてしまう心の状態の時もあると思います。そこで、私は、速いスピードで追い抜く人に対しては、トイレに行きたくて急いでいるんだらうと思ひ、逆にゆっくりな人に対しては、この辺りの人ではなくて迷っているのだらうと思うといいと思います。相手の状況を想像する思いやりが、安全運転につながると思います。

中学生の私に、一番身近な乗り物は自転車です。通学、通勤から、ちょっとした買い物まで、手軽に乗れるので便利です。そんな風に

身近で手軽だからこそ、油断してしまっているところがあると思います。自転車は、道路交通法上では「軽車両」といって、車やバイクと同じです。自分もドライバーだという責任を感じました。もし、事故を起こし、加害者になると、高額な損害賠償金を支払わなければいけないこともあるそうです。自分一人ではなく、自分の家族、相手の方やその家族も巻き込んでしまいます。また、いくらお金を払っても、命は戻ってきません。高額のお金を払われ、たくさん謝罪されても、一生心に残る傷となると思います。「あの時こうしとけばよかった」と思わないよう、きちんとヘルメットをつけ、ルールを守り、緊張感をもって運転したいです。

車や自転車、バイクなど、とても便利だと思います。重い荷物を運べたり、遠い場所へ、速く、楽に行ったりできます。しかし、その分怖さがあると思います。ついつい忘れがちですが、誰でも、いつでも、どこでも、事故を起こす、事故に遭う可能性は十分にありません。お酒を飲んだり、ヘルメットをかぶらなかつたり、そのたった一瞬が命を左右します。事故の被害者、加害者になつてから後悔しても、起こったことは変えられません。今まで事故を起こしたことがない、事故に遭ったことがない人も、他人事と考えず、自分に問いかけてみてください。

「油断していませんか。」

私にできること

西条市立西条西中学校

二年 松田 莒

私が、生まれてはじめて交通事故を身近に感じたのは、弟が自転車で車とぶつかった日でした。

その日、いつもどおり学校から帰った私は、家の中の様子がいつもと違うことにすぐに気が付きました。真剣な面持ちで、誰かと電話している母。笑顔なく、一人でぼんやりテレビの前に座っている弟。リビングの暗くて重い空気に、私は戸惑いました。母が私を弟のいない部屋に呼んで、弟が交通事故に遭ったことを話してくれました。驚きと恐怖で言葉がでなかつたことを憶えています。

いつも元気で、危なっかしい弟。その日も、友達との待ち合わせに急いでいたそうです。腰から足にかけて痛々しい傷を負った弟ですが、何より心に大きなショックを受けていたようでした。自分が事故に遭うなんてことは、今まで考えたことすらなかつたのだと思います。自転車が怖くなってしまったのか、体の傷が完治しても、なかなか自転車で乗ろうとしませんでした。母は、そんな弟をいろいろと慰めていました。

たった一瞬の出来事で、日常が崩れてしまうこともあることを、私は弟の事故から実感しました。それまで私にとって交通事故は、テレビの中でしか見たことの無いものでした。映像を見たり、コメントーターの話の聞いたりして、交通事故を怖いと感じたことはありませんでしたが、実際に事故に遭う恐怖を感じたのは、やはりこの時がはじめ

てでした。あの日事故に遭ったのは、私ではありません。しかし、毎日の登下校中、自転車に乗っている私は、実は常に交通事故と背中合わせなのです。弟に起こったことは、十分私にも起こりうることなのです。

考えてみると、弟以外の家族にも交通事故の危険は常にあります。もうすぐ七十歳になる祖母の車の運転は、ひやっとする場面が少し増えました。カーブを曲がる度に変な音を鳴らすようになった、年季ものの母の車のことも心配です。高齢になれば様々なことへの対応力が落ちていることを自覚して、スピードを十分落として運転しなければなりません。車の調子はいつも気にかけて、定期点検だけでなく、少しでもおかしいと思ったら、すぐに点検を受けるべきです。自分や自分の車の力を過信せず、常に謙虚に見直すこと。それは、自転車に乗る私たちにとっても、とても大切なことです。

凡事徹底こそが、交通事故の防止につながるのだと私は思います。例えば、危険予測や一時停止、再確認などの行為を、どんな道だろうが、どんなに急いでいようが、必ず行うことです。それを、当たり前前に徹底的に行うことで、起きていたかもしれない事故を防ぐことができるのではないのでしょうか。「道路へ飛び出さない」「赤信号は渡らない。」私たちは、小さいときからそう教えられてきました。子供の頃から当たり前にそうしてきたこと、子供でもできることを、ただただ、し続けることが、自分と他人の命を守るために重要なのです。

弟の事故が起きてから、私の交通事故に対する意識は大きく変わりました。いつ、誰の身に起こってもおかしくない。それが交通事故です。しかし、それを防ぐために私たちができることは幾つもあり

ます。毎朝の自転車通学。今日も左右を確認します。命を、幸せを守るために……。



被害者にも加害者にもなりません

西条市立丹原東中学校

二年 安倍 ゆず季

「君達はチームの一人です。一人が欠ければ誰かが補わなくてはならない。チームが最高のパフォーマンスを発揮するために、全員が、試合に、そしてそのための練習に居なくてはならない。健康に気を付け、体調不良にならないように、怪我をしないように生活をなさい。」先日の練習試合の後のミーティングで顧問の先生に言われた言葉です。

私はバレー部に所属しています。今まで練習を休んだことはありませんが、練習を休むと、誰かが私の代わりをしなくてはなりません。規則正しい生活をして、絶対にチームメイトに迷惑を掛けないようにしようと思いました。

しかし、どんなに気を付けていても交通事故に遭ったらと考えてしまいました。自分が交通ルールを守っていても自動車のドライバーがルールを守らなかったり、路面凍結などの自然現象があったりして事故に巻き込まれることもあります。

私は、近くの移動に自転車を利用しています。通学方法も自転車です。一緒に通学している友人の自転車と接触して危ないと思ったことがあります。幸い大きな怪我をしたことはありませんが、一歩間違えば大怪我につながっていたかもしれません。左側の一列通行やスピードの出し過ぎをしないことなどに気を付ければ防げた事でした。また、いつもヘルメットを被っていたことが大きな怪我をしなかつ

たことにつながっていたと思います。交通ルールを守り、防げる事故は絶対に防ごうと思います。

そんな私は、先日、交通事故の加害者になってしまいました。登校中にすれ違った集団登校中の小学生の傘と私の自転車が接触したのです。すぐに、自転車を止めて振り返るとその小学生は列に戻り歩いて行ってしまいました。私は「大丈夫だった」と勝手に思っただけのまま登校しました。朝の会の後、担任の先生から、その小学生が小学校で手当てを受けていることを聞きました。その瞬間、頭の中が真っ白になりました。「大きな怪我をしていたら：あの時声をかけて確認して置けば：謝って済む問題じゃない：」そんな思いが頭の中をグルグル回って自然と涙が出てきました。その後、担任の先生と小学校に行きました。小学生は傘が当たっておでこにたんこぶができていて、保健室で手当てを受けていました。小学生の保護者の方も来られていました。私の父も小学校に来て、一緒に謝罪しました。その後、父は小学生の家にも謝罪に行ってくれました。

両親には、日頃から自転車は被害者になるだけでなく加害者になることもあるから注意するように言われていました。しかし、私は被害者にならないようにとだけ考えて過ごしていたように思います。加害者になることを気にも留めずに生活していたのです。幸い、相手が軽傷でしたが、歩行者にとって、自転車は危険な乗り物であると痛感しました。ルールを守ることは自分を守ると同時に他人を守ることだと思っています。

加害者になるということは被害者が居るということです。被害者になれば被害者本人が大変なことはもちろんですが、被害者の周囲の人にも迷惑が掛かることを自覚しなくてははいけません。被害者に

ならないと考えると同時に加害者にならないと考えることが求められると思います。部活動の顧問の先生が私たちに言われた言葉は、自分がきちんと生活していくことが周りの人も幸せにするという事だと思いました。自分のことだけを考えるのではなく、他人のことも考えて生活することが大切です。

私は自転車に乗る時、いえ、大人になって車に乗る時もルールを守り、被害者にも加害者にもならないように努めていきます。



「高齢者ドライバー」

大洲市立大洲北中学校

二年 池浦 陽菜

危険というのはどこに、どのようにひそんでいると思いますか。危険は目に見えるものと見えないものがあります。目に見えるものは物理的な解決ができるかもしれませんが。一方、目に見えないものはどうでしょう。その時の状況などで大きく結果が左右されます。ただ、目に見えないものであっても、経験から回避できることは多くあります。高齢者ドライバーの免許もその一つではないでしょうか。最近のニュースで高齢者ドライバーの事故が増え、大きな社会問題になっています。日本は世界の中でも指おりの高齢化社会に突入しています。私が住んでいる愛媛県も例外ではありません。そして、世の中は車社会となっており、現在の生活にかかせないものとなっています。そこで高齢者ドライバーをとりまく社会背景や問題点を考えてみたいと思います。

繰り返される高齢者ドライバーが起こした悲惨な事故のニュースを見てみると、高齢者ドライバーの事故が「増えている」「危険だ」と感じます。しかし調べてみると、どの年代でも同じように事故が起こっていました。高齢者ドライバーすべてが危険というわけではなく個人差があるようです。ただ、データを見ると七十五歳を越えると要注意八十歳を越えると危険と予測されていました。交通事故は命に関わります。リスクが少しでもあるなら、免許を取り消した方がいいのではないかと思います。私の祖父母は七十五歳

を越え、要注意ラインにいます。自分の祖父母を見てみると、本当

社会になることを私は求めます。

に危険で免許返納が正しいのか考えてしまいます。祖父母を見てみると、まだまだ元気で大丈夫なように思います。それに、愛媛に住んでいる祖父母にとって車は生活にかかせない、なくてはならないものです。祖父母だけの二人住まいなので、食料品を買いに行くにも、病院に行くにも車は毎日必要です。今、免許がなくなってしまうと祖父母の生活はとても困難なものとなってしまいます。多くの高齢者が同じような状況になっているのではないのでしょうか。元氣そうに見えても高齢者の多くは、「足が悪くなった」「目が見えにくくなった」など身体の所々は弱ってきており、普段の生活では大きな支障がなくても、運転をするには、もしかしたら危険な方もいると思います。生活をするうえで、簡単に運転を止められない理由があり、悩まれているのかもしれない。今後高齢者ドライバーはどんどん増えていきます。何らかの対策は必要だと思えますが、免許を返納するだけで解決する問題ではありません。高齢者が安全に運転できるように運転能力のきちんとしたチェックや安全技術の進化、公共交通機関の整備等が必要になってくると思います。最近、私の家の車も自動ブレーキや踏み間違いを防止する機能がついた車にかかりました。この車の機能は高齢者ドライバーだけでなく、すべての運転者にとって安心につながるものだと思います。このような高齢者にとっても、私たちにとっても安心できるものがたくさん増えていくといいと思います。私の祖父母もこのような車を利用しているので、まだ運転しても大丈夫かもしれません。しかし、油断が大きな危険につながると思うので、少しでも危ないと感じた時には、勇気をもって祖母に免許返納の話をしたいと思えます。免許返納しても住みやすい



交通安全について

宇和島市立城北中学校

二年 桑山 暁史

私は中学生になって、徒歩通学から自転車通学になりました。自転車通学で学校に通うようになると、徒歩通学の時よりも通学距離が伸び、気を付けなければならぬ危険な場所が増えました。私には、少し自転車通学に慣れてきた頃に、安全に学校へ到着することは簡単な事ではないと実感した出来事があります。

私は、中学一年生時に、自転車登校中、下り坂でよそ見をしてしまい、曲がり角のガードレールにぶつかるといふ交通事故を起こしてしまいました。自転車のフレームは大きく曲がり、タイヤはパンクし、ブレーキと前カゴが破損するなど大きく損傷しました。幸い、他人を巻き込むことはなく、私自身にも大きなケガはありませんでしたが、もし当たりどころが悪かったら、大怪我になっていてもおかしくない状況でした。

私は、交通事故を起こしたとき、特にスピードを出していたわけでもなく、気持ちに余裕がなかったわけでもありません。スマホとイヤホンをしていただけでもありません。いつもと違う事といえば、少し考え事をしながら運転していた事くらいです。昨日と何も変わらない、ただ普通に通学していただけでした。しかし、ほんの少しの気の緩みから実際に交通事故を起こしてしまいました。私はこの事故から、交通事故は特別な理由や原因があるわけではなく、気の緩みや前方不注意などの、人なら誰でも起こす原因から、多くの交通

事故が起こるのだと思いました。

では、どうすればこのような交通事故を防ぐことができるのでしょうか。私は、日常に潜む危険に対する意識の低さから、交通事故も引き起こしてしまいました。人間は、必ず油断や慣れから気の緩みを起こすので、誰もが、気は緩むものだと思える事が必要だと思えます。普段の何気ない行動や生活を見直す方法が、始めやすく簡単だと思います。他にも、通学路の危険な場所、天気や道路の状態、交通量といった交通環境を知ることが重要です。令和二年の自転車対自動車の交通事故発生場所は、約四十六パーセントが交差点で発生しています。交差点という交通量が多くなりやすい環境と、自分以外のドライバーという不確定要素の多さから、このような高い統計結果がでているのだと思います。晴天時と雨天時の事故発生率の対比では、晴天時に比べ雨天時の方が交通事故発生率が約四倍と高い数字が出ています。このデータから、交通事故発生には、交通環境の問題も大きく関わっているとと言えます。交通事故で亡くなった人や、重傷を負ってしまった人の三分の一以上が、安全不確認や前方不注意といった、誰もが起こしてしまう原因で事故を起こしています。

このように私は、ドライバーの意識や交通環境の問題が重なった時、事故に繋がるのではないかと思っています。全員が、完璧に事故を起こさないようにすることはとても難しい事だと思います。しかし、日常生活の中で、周りの環境をよく見て「この交差点は右側が見えにくいから、右側からくる歩行者に気を付けよう。」「雨が降っている日は、滑らないようにゆっくり走ろう。」などと意識をして、交通事故防止を心がけることなら沢山出来ます。この作文を読んだ

人が、少しでも交通事故に対する問題意識をもってくれて、より多くの人が交通事故なく安全に暮らせるようになればとても嬉しいです。



ヘルメット

四国中央市立三島西中学校

三年 石井 萌々

なぜ自転車に乗る時、ヘルメットをかぶらないといけないのだろう。何度かそう思ったことがあります。ヘルメットは自分の命を守るためのもの。それは今まで何度も教わってきたことです。それなのに繰り返し呼びかけられるのは、まだヘルメットをかぶらずに自転車に乗っている人が多いからだと思います。ヘルメットはなぜ必要なのか。一人一人がより具体的に考えるべきだと思います。

私が考える理由の一つは、ヘルメットをかぶることで安全意識が高まることだと思います。家を出るときにヘルメットをかぶると、「自分は今から自転車に乗るんだ。事故に遭わないようにしよう。もし歩行者とぶつかったときには自分が加害者になるんだ。」という意識が生まれると思います。普段身に着けていないものを身に着けることで、人間は「いつもと違うぞ。」という意識が生じ、集中力がアップするはずです。また、ヘルメットをかぶっていない大人も多くいます。しかし、中学生が身に着けているのを見て、意識が変わるのではないのでしょうか。さらに、「地域の中学生がきちんと安全に気を付けている。」と思えば、自動車を運転している大人も、「自分も安全運転を心掛けなければ。」と思ってくれるはずです。自分の安全意識が高まるだけでなく、周りの人たちの安全意識も高まれば、交通事故そのものが減るのではないのでしょうか。

そして私が考える二つ目の理由は、やはり、自分の命を守るため

です。以前、私は中学生の乗る自転車と自動車が発生した場面を写真で見たことがあります。車のガラスは粉々にくだけ、中学生の自転車と体がぶつかった車体は大きくへこんでいました。その様子から、写真を見た瞬間、この中学生は命を落としてしまっただろうと思いました。しかし、幸い命はとりとめたそうです。医者によると、その子は、ヘルメットのおかげで無事だったのだそうです。そうでなければ即死だっただろうとも言っていました。この話から、やはりヘルメットは命綱なのだと思います。いちばん大切な頭を守ってくれたことで、衝撃を緩和し、事故に遭っても命を落とさずに済んだという話はよく聞きます。ヘルメットをかぶるのが面倒だと思っている中学生もいると思います。でもそのひと手間で自分の命を失わずに済むのなら、大切な人の命が守られるのなら、何も面倒なことではないのではないのでしょうか。

このように考えると、しなければならぬと言われていることにはやはりきちんとした理由があるのです。先生や警察、親などは、私たちのために言ってくれているので、あらためてルールをしっかりと守ろうと思えました。ヘルメットは安全意識を高めるためのものであり、何より命を守るためのものであるという、自分なりの答えをもとに、これからも一つ一つのルールの意味を考えて行動していきたいと思います。そして、交通安全を心掛ける大人になっていきたいと思います。

「私の願い」

愛媛大学教育学部附属中学校

三年 吉田 実央

くすんだ空の下、私は急いでいた。ペダルを漕ぐ足は速く、前だけを向いていた。信号は赤。急いでいた私は足を止め信号が青になるのを待った、その時。何かが私の横をすり抜けた。それと同時にキキーツと音がした。車と自転車が接触していたのだ。私は初めて目の前で事故現場を見て怖くて足がすくんでしまった。近くにいた大人の方々はすぐに一一〇番をして倒れている人の近くに寄って声をかけていた。私はただそれを見ていただけだった。警察の方も救急車もその場に到着したので私は家へ帰った。その日のことをお母さんに話した。するとお母さんは、「あなたもその方のように事故にあっていたかもしれないよ。」と言った。私はこの言葉を今まで一度も忘れたことはない。そしてこれからも忘れることはないだろう。なぜなら事故が起こった日、私は急いでいて赤信号でも車が来ていないから渡ってもいいかな。という気持ちがあったからだ。だからこそこの言葉がとても心に染み込んだのだ。

あの日の事故と言葉から私自身考えさせられたことが二つある。一つ目は誰もが事故にあう危険があるということだ。事故にはどちらかが悪いときとどちらかが悪いときの二パターンあると思う。今回は自転車で乗っていた方の不注意だったと思うが、車に乗っていた方も巻きこまれて事故にあったのは事実だ。ケガはなくても事故がトラウマとなり車に乗れなくなってしまうたり、悪くなくても相手にケ

ガをさせてしまつて罪に問われてしまつたりするなど、それをきつかけに人生を変えてしまうことがある。自分だけでなく、相手の人生まで自分の行動によつて変えてしまうのは本当に良くないことだと思ふ。そして事故件数は一年で約四十七万件起つていて一日でも約二千件近く起つてゐる。いつ、だれにでも起こりえる事故を一人一人が気をつけて運転していかなければ事故を減らすことはできないし、人の人生を大きく変えてしまふ人もでてくると思ふ。二つ目は今後私は何を気をつけて自転車運転しなければならぬのかということだ。まず必須なのはヘルメットをつけることである。この「当たり前」を守れていない人が多いのだ。ヘルメットは自分の身を守るために必ず必要なものとなる。まずは「当たり前」を徹底しようと思ふ。もう一つ気をつけるべきことがある。それはそのときの「心情」だ。私は保健の授業で自転車に乗っている時の「心情」が事故にどう確率に影響してしまうと学んだ。例えば悲しいやつらという感情。その気持ちのまま運転をすると心が落ち込んでゐるので前を向いて運転できなかつたり、ボーっとしてしまつて運転に集中できなかったりするなど運転にも影響がでてしまう。極端と思ふかもしれないが、大きく影響していなくても事故を起こすきっかけとなり、それがやがて大きな事故へとつながつてしまふ。そうなるのを防ぐためにも運転するときの「心情」には気をくばり、気持ちをコントロールする力が必要になつてくると思ふ。

あの日見た事故、そして学んだことを通して運転する人へ伝えたことは、防げる事故は防いでいかなければならないということだ。そのためには初めて運転したときの緊張感を持つて運転してほしいと思ふ。初めて自転車や車を運転したときは身だしなみや体調など、

あらゆることに對して気を配つてハンドルを握つたと思ふ。だがやがて慣れてくると気が抜けてしまつて自覚や緊張感もなくなる。そういうときに事故が起こつてしまふのだ。運転をするという自覚、そして緊張感を毎回運転をする時に持つていければ防げる事故は確実になくすことができると思ふ。私は防ぎようのない事故というのはほとんどないと思ふ。だからこそ防げる事故をなくしていくことで交通事故の件数も大幅に減り、事故によつてつらい思いをする人も少なくなると思ふ。

私はあの日の事故を見て、事故というものを身近に感じた。誰にでも起こりえるものであり、そしてその日の状態や感情によつて事故にあふ確率に変化が生じる。逆に言えばその日の状態も良く、心も落ちついていれば事故が起きることはまずないということだ。でも自分だけが気をつけていれば事故にあわないうわけではない。全世界の全ての人が気をつけていなければ、気をつけていた人も事故に巻きこまれる確率は少なからずある。だからこそ私の体験を通して交通事故を身近に感じてもらい、起きてからでは遅いということに気がついてもらいたい。交通事故を減らすために。そして人の人生を変えてしまふ前に。



事故を防ぐために

松山市立三津浜中学校

三年 梶岡 咲良

私が小学校高学年のときだったと思います。下校していると、自転車に乗ったおばあちゃんと自転車で乗った小学校低学年くらいの女の子が道路でぶつかったのです。おばあちゃんは前を向いてゆっくりと、女の子は後ろにいる友達と話しながら少し速めのスピードで移動していました。そのとき私は何人かの友達と下校していて、「危ないね。」

と、話しているどぶつかってしまいました。女の子はすぐ立ち上がったけど、おばあちゃんは、「いたたたた。」

と、言いながらゆっくり立ちました。私たちはおばあちゃんにかけ寄り、

「大丈夫ですか。」

と、声をかけながらカゴから落ちた荷物を拾い、倒れた自転車をおきました。そのときおばあちゃんは、

「大丈夫。」

と、言いながら行ってしまいました。今思えば、頭を打っていないかの確認、痛いところがないか、けがをしていないか等の身体状況の確認をし、近くにいた大人を呼び、対応してもらってもよかったのではないかと反省しています。また、自転車は軽車両と同じ扱いになるので事故や接触をした場合、警察に通報する義務もあります。

私が通っていた小学校では交通安全教室は入学してすぐ行われていましたが、自転車教室は中学年になってからでした。自転車教室を交通安全教室と同じくらいの時期にしていれば、ぶつかった女の子の自転車の乗り方に対しての意識も変わって、おばあちゃんどぶつかることが防げたのではないのでしょうか。

自転車が軽車両であるという観点から、車と同様に保険に入ることが義務づける制度が必要ではないかと考えます。二〇一五年、兵庫県が全国で初めて自転車の損害賠償保険への加入を義務づける条例案を施行しています。愛媛県でも二〇二〇年から義務化されましたが、残念ながら周知していないように思います。私自身も知りませんでした。加入を義務づけている自治体は全てではありません。各自治体に任せるのではなく、国がそのような法律を制定するべきだと思えます。

制度を変える一方で、自転車に乗る人の意識を変えなければならぬと考えます。そのために自転車教室を一回だけでなく何度も行い、自転車の正しい乗り方や運転方法を定着させる必要があります。ヘルメット着用を当たり前にするために自転車購入時は必ずヘルメットもセットにするよう義務づけしてはどうでしょうか。

自転車同士の接触だけでなく、自動車や人との接触を防ぐためにも自転車だけが通る道路をもっと増やすのもいいのではないかと思えます。そうすれば、自動車を運転する人も歩いている人も自転車と接触することがなくなります。

自転車について色々調べていると、自転車は自動車と速度制限が同じだということがわかりました。自転車自体に法定速度の規定がないため、最高速度を指定する道路標識等が設けられていない場合

には、どれだけスピードを出しても、速度超過には問われません。自動車や自動二輪と比べるとあいまいさが目立ちます。自転車には、一般的なママチャリといわれるものからあまりなじみのない競技用自転車までさまざまな種類があります。用途によって出すスピードが変わってきます。そのため、速度規制をするのは難しいと思います。事故を防ぐためにもそのようなことが将来的には必要になってくるのではないのでしょうか。自動車業界では、AI化が進み、自動運転機能付きの車も増えてきています。その技術を自転車にも活かし、一定速度以上は出すことができない自転車をつくる、または、メーカーをつけて自分で速度が確認できるようにした自転車にしてみてもいいのでしょうか。

自転車は子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の人が乗ることのできる、免許のいらぬ一番身近な乗り物です。だからこそ、ヘルメットを着用し、正しい運転の仕方をつけないと、事故をする可能性が高くなってしまいます。

私は来年、高校生になります。自転車で通学することになるでしょう。そのときは、ヘルメットをかぶり、正しい運転ができるよう、事前に確認しておきたいです。



安全意識を高めて

松山市立南第二中学校

三年 安永 ゆずは

幸せなことに私は、交通事故に巻き込まれたり危険な目に遭った事はありません。家から一歩出掛けると、いつ何が起きてもおかしくありません。部活動や塾、友達と遊びに行く時よく自転車を利用します。小中高年生にとって一番身近な移動手段であり、かつ危険をとまなう乗り物です。交通安全についてきちんとした知識を身につけ、被害者にも加害者にもならないように努力を怠ってはいけません。

まず通学路について考えてみたいと思います。家から学校まで片道二キロメートルを歩いていると、所々危ないと感じる箇所があります。

一つ目、歩道を分ける白線が薄くなったり、引かれていないことです。特に交通量が多い時間帯では、白線を越え車が歩道に入り、私のすれすれを通り過ぎて行きます。最近では、歩道を歩いても周りの安全をしっかり確認しています。

二つ目は、樹木が道に伸びだし通行の妨げになっていることです。前方からの車やバイクに気づくのが遅れることもしばしばです。私の住んでいる所も、十年前と比べると多くの住宅が建ち並んでいます。小学生の頃安全だと感じていた通学路が危険性を増し、定期的に通学路の変更の必要性が求められています。これらの問題点が改善されない現時点では、一人一人の意識改革が重要となります。

愛媛県ではヘルメット普及率が二十九パーセント、全国首位になっ

ています。二十十三年から県の条例で努力義務化され、さらに十三歳未満の着用率は六十三パーセントにも及びます。学校での自転車教室は、正しい知識でルールを守る大切さを教えてくれます。

また今コロナ禍の影響で、世界的に自転車活用が進められています。日本でも健康や環境を考え、三密を避けたいと思う人が自転車に乗り、従来以上に乗る回数や距離を増やす傾向があります。だからこそ、安全運転を徹底し万一の場合に生命を守り、医療機関への負担を増やさないためにも、改めてヘルメット着用の大切さを啓発する良いタイミングだと思います。私の家では各自ヘルメットがあります。車のシートベルト装着義務化で死亡率が低下したように、ヘルメット着用で大切な生命が守られるよう祈っています。

さらに、スマートフォンの普及による交通影響を考えてみようと思います。車に限らず、バイク、自転車に乗りながらの「ながら運転」をよく見かけます。スマートフォンが必要であれば必ず一時停止してからの利用をするべきです。以前、目の前の車がパトカーに呼び止められていました。明らかに左手にスマートフォンを保持しながら運転していました。どんな急用があっても決して許される行為ではありません。罰金を払うことになっても、生命より尊いものではありません。

最近ではあおり運転による犯罪も増加しています。私の家では三年前の車買い替え時、ドライブレコーダーを装着しました。事故時の証拠にもなり、安心安全を手に入れることが出来ます。運転手みんなが見られているという意識を持つことで、思いやり、譲り合いの気持ち広がっていくはずですよ。

高齢者運転について考えたいと思います。祖父母は山間地で生活

しています。年々バスや電車の便数が減少し、車は生活の一部となっています。帰省した時に、山道を電動車椅子で下り買い物に行っている高齢男性を見かけました。免許返納したが、元氣な間は行動範囲を広げておきたいとのことでした。楽しみを奪うことなく、生活を維持してあげたいものです。

最近兄が運転免許を取得しました。乗る側から乗せる側の立場になりました。初めて兄の運転する車に乗った時は緊張でドキドキでした。その時助手席に乗っていた母は、子供の運転に触れることで、交通安全に対して初心に戻れると言っていました。ハンドルを握ることとは人の命を預かること、同時に未来も預かることだと感じました。

いつ誰が事故に遭うかは分かりません。加害者になっても被害者になってしまう。近い将来、私も運転免許を取りたいと思っています。その時は、しっかりと学び自信をもって運転したいと思っています。交通事故を減らす取り組みが充実され、一人一人の運転に対する意識が深まることを心から願います。



自転車に「TSマーク」を貼いましょう！！

◇ TSマークには保険が付いているので安心

- 年に1回、自転車安全整備店で、点検・整備を受けると、そのしるしとして「TSマーク」が自転車に貼付されます。
- 「TSマーク」には、賠償責任保険と傷害保険の2つがセットになった1年間の付帯保険が付いているので、もしもの時に安心です。
- お近くの自転車安全整備店へご相談ください。



◇ 付帯保険の補償内容が変更(H 29.10.1 ~)

補償内容	補償額等
① 賠償責任保険 (被害者が死亡等した場合に法律上の損害賠償責任を負った時の補償)	○ 死亡・重度後遺障害 (1~7級) 限度額 5千万円 ↓ (変更) <u>限度額 1億円</u>
② 傷害保険 (自転車利用者が死傷等した時の補償)	○ 入院15日以上 10万円 ○ 死亡・重度後遺障害 (1~4級) 100万円
③ 被害者見舞金 (被害者が入院した時の見舞金)	○ <u>入院15日以上 10万円</u>



「思いやり1.5m」運動の実践を！



愛媛県では、「愛媛県自転車の安全な利用の促進に関する条例」の基本理念として、歩行者・自転車・自動車等がお互いを思いやり、安全・快適に道路を共有する「シェア・ザ・ロード」の精神の普及に努めており、ドライバーの皆様には、自転車を追い越すときの事故防止のため、「思いやり1.5m」運動の実践を呼びかけています。

ドライバーの皆様は、自転車の側方を通過するときは1.5m以上の安全な間隔を保つか、道路事情等から安全な間隔を保つことができないときは徐行していただきますようお願いいたします。

交通安全協会のご紹介

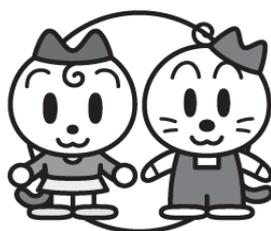
① 一般社団法人 愛媛県交通安全協会

松山市勝岡町1163-7 電話：089-979-2101

ホームページ：<https://www.ehime-ankyou.or.jp/>

② 各地区交通安全協会一覧表

協会名	所在地	電話番号
宇 摩	四国中央市三島中央5丁目4-20	0896-23-5331
新 居 浜	新居浜市久保田町3丁目9-8	0897-32-3260
西 条	西条市新田133-1	0897-55-9911
西 条 西	西条市周布349-1	0898-64-1661
今 治	今治市旭町1丁目4-2	0898-33-3466
伯方地区	今治市伯方町木浦甲4639-1	0897-72-2911
松 山 東	松山市勝山町2丁目13-2	089-941-7810
松 山 西	松山市須賀町5-36	089-951-1725
松 山 南	松山市北土居3丁目6-17	089-958-6558
久万高原	上浮穴郡久万高原町久万542-4	0892-21-0211
伊 予	伊予市下吾川960	089-982-7081
大 洲	大洲市東大洲1686-1	0893-25-0334
内 子	喜多郡内子町内子1432	0893-43-0116
八 幡 浜	八幡浜市広瀬2丁目1-5	0894-24-4895
西 予	西予市宇和町卯之町4丁目659	0894-62-9676
宇 和 島	宇和島市並松2丁目1-30	0895-23-0027
鬼 北	北宇和郡鬼北町大字芝225-1	0895-45-0277
南 宇 和	南宇和郡愛南町御荘平城2982-2	0895-70-1311



あんきょう

愛媛県交通安全協会・各地区交通安全協会

交通安全年間スローガン最優秀作

○ 子供の部門（小・中学生からの応募）過去十五年間の内閣総理大臣賞

平成	二十年	点めつだ 一度止まって 次の青
同	二十一年	じこがない そんなまいにち うれしいな
同	二十二年	さあかくにん ライト ブレーキ ヘルメット
同	二十三年	星キラリ 自転車ピカリ 帰り道
同	二十四年	いそいでも かならずかくにん みぎひだり
同	二十五年	ヘルメット ぼくのだいじな おともだち
同	二十六年	につぼんを じまんしようよ 事故ゼロで
同	二十七年	ルールむし しん号むしは わるいむし
同	二十八年	しんごうが あおでもよくみる みぎひだり
同	二十九年	ペダルこぐ 免許はないけど ドライバー
同	三十年	自転車は 車といっしょ 左側
同	三十一年	とび出さない いったんとまって みぎひだり
令和	二年	しつかりと 止まってかくにん 横だん歩道
同	三年	自転車に 乗るならきみも 運転手
同	四年	とうげこう よそみ おしゃべり きけんがいっぱい

～ 愛媛県交通安全協会ホームページ 広告協賛事業所 (限定100事業所) ～

【四国中央市】

金生運輸(株)
大王製紙(株)
丸住製紙(株)

【新居浜市】

一宮運輸(株)
(株)大石工作所
桑原運輸(株)
住友化学(株) 愛媛工場
住友共同電力(株)
住友金属鉱山(株) 別子事業所
住友重機械工業(株) 愛媛製造所
新居浜工場
宝運送(株)
東予信用金庫
日泉化学(株)
(株)三好鉄工所

【西条市】

(株)田窪工業所

【今治市】

(株)IJ C
今治造船(株)
今治ヤンマー(株)
岡山理科大学 今治キャンパス
四国ガス(株)
四国通建(株)
四国陸運(株)
瀬戸内運輸(株)
太陽石油(株) 四国事業所
波止浜興産(株)
BEMAC(株)
眞鍋造機(株)

【松山市】

あいおいニッセイ同和損害保険(株)
アカマツ(株)
アサヒビール(株) 松山支社
(株)アテックス
アトムグループ
(株)アベホンダHonda Cars 松山北
池田興業(株)四国支店
(株)井関 松山製造所
(株)伊予銀行
(株)伊予鉄グループ
(株)NTTドコモ四国支社 愛媛支店
NTT西日本
(株)愛媛銀行
(株)愛媛CATV
(一社)愛媛県警備業協会
(一社)愛媛県指定自動車教習所協会
(一社)愛媛県自動車整備振興会
愛媛県遊技業協同組合
(株)愛媛新聞社
愛媛信用金庫
愛媛総合警備保障(株)
愛媛ダイハツ販売(株)
愛媛トヨタ自動車(株)
愛媛トヨペット(株)
愛媛日産自動車(株)
オオノ開発(株)
(株)門屋組
(株)上陣
(株)ガリレオコーポレーション
こくみん共済COOP愛媛推進本部
JA共済連 愛媛
JAバンクえひめ
四国電力(株) 愛媛支店
四国名鉄運輸(株)
四国旅客鉄道(株)
JAF愛媛支部
(株)セキリティエヒメ
(一社)全国道路標識・標示業
四国協会 愛媛県支部
全国農業協同組合連合会
愛媛県本部

(有)大豊陸送
(株)たいよう共済 愛媛支店
(株)タカラレーベン西日本
帝人(株) 松山事業所
(株)テレビ愛媛
トヨタ L&F 西四国(株)
(株)トヨタレンタリース西四国
日本郵便(株) 四国支社
フェイス・ソリューション・
テクノロジーズ(株)
(株)フジ
(株)フジセキュリティ
(株)フードサポート四国
ヨシケイえひめ
三浦工業(株)
(株)村上モータース
(株)四電工 愛媛支店

【伊予郡砥部町】
医療法人 誠志会 砥部病院

【伊予市】
山陽刷子(株)
マルトモ(株)

【伊予郡松前町】
東レ(株) 愛媛工場
日章(有)

【大洲市】
(株)一宮工務店

【八幡浜市】
(株)サンリード
八水蒲鉾(株)
堀田建設(株)

【宇和島市】
宇和島自動車(株)
宇和島信用金庫
ベルグアース(株)

(令和3年12月1日現在 93事業所)



一般社団法人
愛媛県交通安全協会
Ehime Traffic Safety Association

交通安全活動を支援しています。

〒799-2661 愛媛県松山市勝岡町1163-7

TEL: 089-979-2101